

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103792		
法人名	有限会社 エムアイティエス		
事業所名	藟藟グループホーム		
所在地	岡山県岡山市北区神田町2丁目8-32		
自己評価作成日	平成30年12月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成31年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①主治医が同建物内で居住しているので何かあっても早急に医療面での対応可能 ②ご家族との意見し合える関係作り ③職員の悩みや不安の解消、相談しやすい環境作り ④町内の方々への笑顔対応、清掃活動 これらを柱として閉鎖的ではなく開放的に活動しています。また2Fの広いベランダで各階担当の家庭菜園(トマト・ナス・ジャガイモ・サツマイモ・ハーブなど)や喫茶を行い、作る喜び・食べる楽しみを味わい全体交流を暖かな季節に開催しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に母体の医院があるため、体調不良者にも迅速に対応ができています。施設内の組織図も明確で、各ユニットの管理者もしっかりと役割を果たせています。そのため、職員も業務に不安なく、前向きに仕事に取り組める環境にあります。職員のクラブ活動が充実しており、職員間の交流が図れ、関係機関の参加もあり連携も行いやすい関係作りができています。その中で、働く職員が笑顔で入居者に接することができ、入居者も笑顔になれ、施設の理念である「人間らしく」和やかに暮らすことができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生きている限り人間らしく」を軸に各ユニットごとに毎年オリジナルの理念、月目標をユニットごとの課題や特色、職員や入居者の性格・レベルなど踏まえて考え取り組むようにしている	理念を軸に、健康を第一に考え、入居者様が1日1回は笑えるように心がけ、笑顔の連鎖が途切れないように努めています。入居者とスタッフとの関係作りを大切にすることで、お互いに人間らしく和やかな雰囲気の中で過ごすことができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の行事などで1Fホールの場合提供をしてお見学させて頂いている。町内行事(初詣、夏・秋祭りの参加・行燈展示)、保育園(富田・からたち)からの年2~4回訪問や合同イベント、散歩を兼ねての掃除など行っている	日々の散歩の中で、地域の方と挨拶を交わすことで顔みしりの関係が構築されています。地域の子供達からも声をかけてもらえるようになり、認知症の方への理解が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において活動内容や認知症の方への対応、感染症対策、病気や薬の説明などしている。また黒田医院内に各ユニットの新聞(活動や感染症など)の掲示をして活動を記している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度町内会長・民生委員・老人会・地域包括、生活保護課の担当職員等で施設サービスの実情、状況報告、地域への協力などについて意見交換や包括などお知らせの場として運営している。担当職員外の参加や家族参加の声かけを取り組んでいる	会議の中では、地域の民生委員の方から認知症の方への接し方などの質問があり、包括支援センターの方と一緒に対応することができました。災害時の避難方法等も、話し合いで決めることができました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課・包括支援センター、生活保護課の担当者にサービスの相談・苦情など報告し、不明・疑問点などあれば事業者指導課の方に情報を聞くようにしている	普段から市の職員とは連絡をとっています。制度のことであったり、困難ケースについてのアドバイスも受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、様々な事例(身体拘束に当たる行為・認知症、周辺症状への対応・ストレスケアなど)を検討しケアに取り入れている。特にスピーチロックに取り組んでいる	入居者様の自由をうばわないように心がけています。特に新人職員への教育に取り組んでおり、ケア方法について確認し合ったり、スタッフ同士、業務の中で注意し合える環境です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止責任者を設置し、身体拘束・リスク検討委員会を中心に職員に周知できるよう努めている。虐待の種類や対応など勉強し不審な傷など見落としが無いよう身体チェックも行き、介護職員への不安やストレスチェックを年1回行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方がおられ、実際に関わり研修などの機会や弁護士の方に相談しながら情報共有できるよう職員全員で取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を分かりやすく随時修正している。説明時には項目ごとに読み上げ、理解しにくい場合は例をあげ説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に年2回程度アンケート実施。回答をもとにスタッフ会議や運営推進会議などで検討発表したり、御意見箱を各ユニットごとに設置・面会時や毎月のお手紙での聞き取りをして対策・検討している。また説明書など常時閲覧可能	事業所独自のアンケートを行っており、その意見や要望に応え、業務に反映されています。また職員から家族にアンケート記入の声掛けや、匿名にするなど、アンケートの返却が増えるように努力しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員へ聞き取り等を行い、提案(勤務体制・業務見直し)や不満、悩みなど改善できる箇所は随時検討し代表者と協議。また週1回のフットサル・各ユニット職員の独り言ノートへの参加を管理者も参加し、気さく意見し合える環境にしている	スタッフの意見や要望が少しでも多く聞けるように、施設長が用意したノートを活用し、気づきや、悩み事など何でも書き込み心のケアも含め、働きやすい環境に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回昇給、年2回賞与、その他皆勤や努力、委員会手当の支給。自身・他者・リーダー評価も行い、各職員自己アピール・切磋琢磨できるようにして管理者も各階の様子をチェックし状況把握に努めている。今年から処遇改善Ⅰ取得		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な委員会の設置、内外研修会(案内の回覧)等を行いレベルアップに努めながら実情を把握できるように巡回している。また、無資格者には実務者研修受講、経験者へは実践者研修などのバックアップ		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、医療・介護関係者とのフットサルなどで交流や意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者にまずはGHの見学を進めて雰囲気を感じてもらい重要事項説明書を使用し十分な話し合い、説明を行う。また、入居前のアセスメント(居宅・病院・家族などへのヒアリング)の徹底に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込み時及び入居前のアセスメントを作成する際、不安や要望をしっかりと聞き取り、事例などを挙げながら話し合い信頼関係の向上に努めている(特にオシメ多用防止をして金銭圧迫にならないようにする)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントを参考にし、希望や要望をしっかりと聞き取りながら他サービスの説明をして対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側ではなく一緒に生活していくという姿勢で教え合い、励まし合い、その中で本人が主役になれるように努めながら信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	任せきりにならないよう良い距離感を作りながら面会時に相談や説明、毎月初めに日頃の様子や生活動作面などのお便りに協力してもらいたいこと等も伝えている。面会の際にはたわいもない話でも積極的に話をするようにして親近感を増すよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アルバム、ユーチューブでの映像(育った地域・旅行先・好きな俳優や歌手)等を活用をして回想法や記憶の途切れを軽減し心豊かになれるよう努めている。また、御友人の方の面会やお手紙の支援。表町商店街、岡山城や後楽園など岡山ならではの地域資源の活用をしている	入居者が一番輝いていた頃の、音楽や映像、風景を一緒に見たり聞いたりして、その時の楽しかったことや、やっていたことを聞きだしてします。また女性では買い物話から、楽しかったエピソードも聞くこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度の方は特に孤立してしまいがちな為、活動時には席の配置に気を付け交流が平等となれるようにしている。また、何でも職員が手を出すのではなく入居者同士の声の掛け合いや助け合う場は危険がない限りそっと見守る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などでやむを得ず退居された場合であっても相談を受けられる体制、説明をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の希望(食事及び入浴時間・個別レクリエーションなど)は可能な限り意見を聞き、意向に添えるよう日々の観察記録、申し送りや職員会議などで随時検討して本人目線で考えるようにしている	レクリエーションや行事後の本人の反応をとらえ記録に残しています。コミュニケーションが困難な入居者に対しては、表情に出る思いに気づけるようにまた、夜勤帯で落ち着いて普段話さないことも話してくれることもあり、個々の思いの把握に努めています。	施設長の徹底した入居者目線にたち、入居者の思いを汲み取るという思いに、新人職員にも教育できていくことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報を参考にすると共に、随時本人・家族や居宅・病院関係者等から情報を頂き、サービスの適正化など会議などで検討している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を身体・精神面でチェックし個人の観察記録に残し、必要時には個人データ表(バイタル・排泄・食事、水分など)を作成して集計できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの相談、要望を常日頃から耳を傾け気付きノートやモニタリングを活用して会議を行う。意思決定が困難な方に対しては日頃の様子や家族の意向を聞いたりして作成。また普段介護している職員ではなく他階職員からの気づきも取り入れる	日々のスタッフからの意見や、面会時の家族との面談の中での要望等を計画書に反映させ、毎日、計画に沿ったケアが実施できているかチェックしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子や本人の発した言葉、職員の対応など個人記録に記入し申し送りをを行う。介護計画は、1ヵ月～6ヵ月でモニタリングを行いスタッフ会議やケア会議などで見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の体調・事情も考慮しながら臨機応変に個別ケアが行えるよう説明、協力要請している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内活動、保育園との連携や外出をはじめ楽しみの持てるよう取り組みボランティアの受け入れも検討。医療面でもかかりつけ医外でも受診できるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携としてGHIに隣接している黒田医院(内科・整形外科・循環器科)が主体で診察して頂いている。緊急時は、岡山赤十字病院、歯科往診は塩津歯科に協力をして頂く。家族の要望あれば他の病院へも付き添っている	入居者は協力医の受診を希望することが多く、隣接している医院に通院しています。また専門医の受診や入院時等は、協力医と現場サイドからそれぞれ情報提供を行い、医療連携を行うようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回定期的に看護師が入居者の状態を診に来ている。またその他でも適宜相談・助言をしてもらい、必要時受診している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護添書を提出、相談員や看護師に直接電話をして情報提供に努めている。担当医、相談員、家族と十分な治療方針を話し合い可能であれば早期退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人にとって何が1番必要なのか見極めながら本人・家族は勿論のこと医療機関と連携して他サービス利用など状態の変化に合わせて検討をしていく。方針は事務所に掲示・重要事項説明書添付し職員間で情報共有できるように意識をしている	入居者の状態に沿ってその都度医師、職員、本人、家族と話し合い、家族が後悔しないような方針を立て、ケアにあたっています。ケア方法がスタッフ全員で統一できるように、新人職員にも教育にあたっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にマニュアル、緊急時の手順の確認・周知、日々の業務の中で実践力を身につけ医師や看護師へ相談や助言をしてもらっている。緊急時は同建物5階に医師が隣接している医院へ連絡できる体制にしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	委員会を主とし入居者も交えながら年2回以上の避難訓練、器具使用の確認やニュース等での情報収集をして様々な災害を想定とした事例で職員に危機管理を意識付け、点検・災害グッズ購入及び建物住民の方への声かけ実施。一時避難場所として町内へ提供し協力体制整備	事業所と同じ建物内に居住している一般の方に協力してもらえるよう賃貸契約時においている。上層階のユニットの非常階段は急なので、実際に使用することは難しく、(消防署からは2階のベランダで救助を待つようにとされています)いろいろ検討しています。	現在打診中の避難時の滑り台が使用できるようになることと、事業所が地域の中の一時避難場所として活用されていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を考え人生の先輩という基本姿勢からその人好み、その時々状況に合わせてるように心掛けている。特に周辺症状時、トイレの際、何か失敗してしまったなどには耳元で話しかけたりジェスチャーなどで伝え本人・周囲への配慮も忘れないようにしている	入居者のその時々世界観を崩さないような声掛けで本人の気持ちに寄り添った対応を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る出来ないを決めつけず状況把握をし、業務を1番として考えず、その時々で理解や決定しやすいよう簡単な選択肢を提示しながら声かけをし、入居者本意で発言ができるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とならないよう時間や気持ちに余裕を持ちバタバタした空間を作らず、本人の生活にメリハリを作りながら接し、危険が及ばない限り希望を尊重するようにしている(食事・排泄・入浴・レクリエーションなど)ご家族協力のもとペットを玄関先まで連れてきての遊び支援		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には訪問理容が毎月あり、外出・行事などの際には本人が気持ちよくなれるようメイク・ネイルアートなど行い、おしゃれをして頂けるよう支援している。髭・目やに・眉毛や爪、衣服などこまめにチェックして清潔を保てるように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作ることが出来ない方は職員や他人居者の調理の様子を見てもらったり切り方や味付けなど聞いたりして一緒にしているという環境を作り、食べる時にもコミュニケーションをしっかりとるようにし、少しでも何かに参加して皆で食事の場の雰囲気を共有できるように心掛けている	日々の食事は管理栄養士が献立を作っており(誕生日にはケーキがでます)、食事の準備や調理はできる範囲で手伝ってもらい、若い職員は入居者から調理の手順を教えてもらったり、たのしい食事の支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託栄養士による献立で栄養バランスをとり体調、活動量や年齢など個人に合わせた盛り付け、水分・食事も記録して状態変化にも気をつけている。食欲不振時にはパンバイキングやピクニックを企画して気分転換に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、状態に応じて介助用具(口腔ケアシート、スポンジ、洗浄液など)の使用。義歯は、定期的に洗浄剤につける。異常時など協力歯科に連絡する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の仕草やサイン、排泄パターンの記録・把握をして本人が気づける声かけや失敗がないよう誘導、場所不明とならないようトイレの表示工夫を行う。自立に向けオシメ類の使用・多用をしないように心掛けている	入居1か月間程度様子を観察し、本人が気にしていることに配慮しながら排泄の支援を行っています。状態変化に伴い支援の方法も変更し、介護側の都合になってしまわず、本人目線で対応できるように心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量チェック、野菜多めの料理やヨーグルトなどの乳製品を献立内に入れてもらえるよう栄養士に提案している。また、毎日の体操や散歩、排泄・入浴時のマッサージなどで腸の動きが活発になるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	BGMをかけて色々な種類の入浴剤、ゆず風呂など季節感・リラックスできる入浴を提供している。入浴日をおおまかに決めていますが、その日の体調・機嫌で無理な方は無理強いせず変更出来る体制にしている。ヒートショックにも注意している	週に3回は入浴してもらえるように努めています。入浴に対して拒否の強い方には、好きな音楽をかけたたり、誘導の声掛けを工夫したりして対応しています(この時、職員は業務の慌ただしさ感等に追われないように気を付けています)。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状態に合わせてベッド臥床、ソファで休んで頂いている。意思表示や寝返り困難な方には、定期的な臥床・離床、ナーセントパットやクッション使用し安楽位かつ足の冷えのある方にはホットパックなど行い安眠できるようにして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別で薬剤ファイルを作成している。変更時は、医師、薬剤師からの説明・ピルブックなどで随時調べ些細な様子変化も医師・看護師に報告するようにしている。特に糖尿病の薬、抗生物質や鎮痛剤、安定剤服用の方の注意を心掛けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農業をされていた方には、園芸、先生をされていた方には漢字や計算レクリエーションを中心に職員が生徒になって教わりながら行っている。また、特技などを生かした編み物、ちぎり絵、貼り絵など行事の道具作成を職員と共に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、天気にもよるが、できるだけ本人の希望を尊重し散歩・外出の支援を行っている。また、町内公園での昼食会、スーパーでの買い物、ファミレス外食も行い、家族も参加されている外出もしている。家族の協力からドライブをしてもらっている	事業所の周りを散歩し近隣の方と挨拶を交わしたり、玄関で花をみたり、ベランダで外気浴を行ったりして閉塞感を感じないようにし努めています。外出後は入居者の明るい表情が見られます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理は基本事務所で行っているが、お金を持っていないと不安となる方には家族の了解のもと少額を持って頂くことで安心されている。ユニットでのフリーマーケットや買い物などは職員付き添いのもと本人が財布を持ち支払いなどして頂く機会をもっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等からの本人への電話の受付、本人用携帯電話の使用(家族協力必須)や希望があれば施設電話をかけることはできる(長電話は避けて頂く)。暑中見舞い、年賀状やお手紙など自筆や代筆にて出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるようにホール内、玄関入口には毎月色々な飾り付け(生け花・ちぎり絵・ロールアートなど)を入居者の方々と一緒に作成している。また観葉植物を置くことで癒しだけでなくお手入れの役割などの場を作っている。不安になるTVやBGMのチェック、共用場は定期的に消毒実施	雰囲気や崩さないように、職員は大声で話したり、走ったりしないように気を付けまた、静かになりすぎない様に職員から話しかけたりしてながら、和やかに過ごせる様心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやクッション、畳の空間もあり誰でも自由にくつろぐことができるようにしている。また簡易パーテーションを置くことで他者の周辺症状から不快にならないような環境づくり、2Fの広いベランダでの他階と一緒に喫茶など行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな俳優のポスターや家族、住んでいた家付近の写真、作業レクでの生け花・塗り絵作品(懐かしい名所)、お手紙、人形、植物、愛着・馴染みのある物など飾っている。TVやラジオ持参者は各々に好きなTVやラジオを視聴している	居室には備え付けのベットがありますが、畳で過ごしたい方は畳を敷いて過ごされ、その人らしく暮らせる様支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスク検討委員会において各階死角や障害になりそうな危険場所を話し合い、KYTや対策を兼ねた意識付けをしている。また本人が残存機能を活かせるように手すりの設置、トイレの場所表示など工夫している		